



**Q** ダンボールコンポストに入れることができないものは何ですか？

**A** 貝殻や獣肉の骨(手羽先やスペアリブの骨)は分解されないで入れられません。  
(カニやエビの甲羅、魚の骨、卵の殻などは分解されるので入れても大丈夫です。)

**Q** 生ごみの分解が進みません。

- 分解が進まない一番の原因には、水分の不足が考えられます。水分が不足すると(乾きすぎると)分解がうまくいきません。水を追加しておよそ“握って団子になるぐらいの基材の固さ”の水分量を維持してください。
- 開始して最初の1~2週間は、生ごみを分解する微生物がまだ少ないので分解が遅いです。しばらく様子を見てください。
- 気温が低いと微生物の力が弱まるので、夏に比べると冬は分解が遅くなります。
- 生ごみを入れた際には基材によく混ぜ込んでください。よく混ぜ込んでいないとうまく分解されません。
- “米ぬか”や“廃食用油”を入れると分解が促進されます。(100グラム程度が目安)

**Q** 害虫が発生しましたが、どうすれば良いですか？

夏場はどうしても害虫が発生しやすいですが、あまりひどくなった場合は、生ごみの投入を一旦やめて、害虫が減少してから再開してください。

**A** 黒いポリ袋に入れ夏の日差しに当てたり(熱で死滅)、木酢液を入れたりするのも一定の効果があります。

※なお、虫は見た目に悪いものの、生ごみを食べて分解を促す一面もありますので、生ごみ処理自体に支障をきたすものではありません。

**Q** 白いカビのようなものが発生しましたが、どうすれば良いですか？

**A** 生ごみを分解する微生物が活性化すると、基材の表面に白いカビのような菌糸をつくります。これは、とても上手くできている証拠ですので、気にせず混ぜ込んで続けてください。

**Q** 他のダンボール容器や、ダンボール以外の容器で代用できますか？

**A** 一般的なダンボールでも代用できます。新聞紙などを重ねて底に敷けば底がふやけるのを防げます。ダンボールの代わりに発砲スチロール容器を用いることもできますが、耐久性が上がる反面、通気性の確保や水分調整は難しくなります。(微生物が生ごみを分解するには通気性が必要です。)

発砲スチロール容器を使う場合は上蓋に穴を開けるなどして空気が入るようにしてください。



三豊市公式ホームページでも詳しい情報が確認できます。  
<http://www.city.mitoyo.lg.jp>  
 トップページ ⇒ 暮らしの情報 ⇒ ごみ・環境・ペット  
 ⇒ 「はじめませんか？ダンボールコンポスト」



## はじめての

# ダンボールコンポスト

取扱説明書



## ダンボールコンポスト って、なに??

ご家庭で手軽に取り組める**生ごみ処理の方法**です。  
**ダンボール箱**の中にピートモス・もみ殻くん炭という  
 基材を入れ、そこに生ごみを投入します。  
**微生物**の力で生ごみが分解され、  
 生ごみは**良質なたい肥**へと生まれ変わります。



使用方法など詳しくは中をご覧ください。

# ダンボールコンポストの手引き



## STEP 1

ダンボール箱を組み立てます。  
底はガムテープで止め、穴や隙間をふさぎます。  
底敷き用のダンボールも中に敷いてください。



### ワンポイント

- 紙テープより耐久性のある布テープを使用すると長持ちします。
- 底の部分だけでなく、側面のつなぎ目も塞ぎましょう。害虫の侵入を防げます。



## STEP 2

ピートモス  
もみ殻くん炭

ピートモス (15ℓ) と、もみ殻くん炭 (10ℓ) を箱に入れてよく混ぜ合わせます。(お渡しした基材の全量です。)

入れたばかりの状態は乾いているので、1リットル程度の水を加えて水分調整をしてください。



### ワンポイント

“握ると団子になる固さ”が適度な水分状態です。混ぜ合わせながら、ペットボトルなどで少しずつ水を加えると上手くできます。

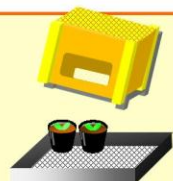


## STEP 3

軒下やベランダなど雨の当たりにくい場所に設置します。  
風通しの良い台の上にダンボールを置いてください。  
(底が水分でふやけて破れるのを防ぐためです。)

### ワンポイント

ビールケースや育苗箱を台に用いるとお手軽です。  
(網目になっていて通気性の良い台を使いましょう。)



## STEP 4

ダンボール箱の上には、布などの通気性の良い素材のカバーをかけましょう。  
カバーをかけることで、害虫の侵入が防げます。

### ワンポイント

カバーは使い古しのTシャツで作ることができます。  
Tシャツの脇から脇を裁断し、縫い合わせると簡単にできます。  
(Tシャツのサイズは男物ぐらいの大きさのものが最適です。)



## STEP 5

いよいよ生ごみを投入します。  
生ごみを投入したら、よく基材と混ぜ合わせてください。  
1日に投入できる量は、およそ三角コーナー1杯～2杯分の量が目安です。

生ごみはできるだけ新しいうちに投入しましょう。

### ワンポイント

生ごみが分解されるには、ほどよい水分が必要です。  
基材が“握って団子になるぐらいの固さ”の水分状態が目安です。  
生ごみから出る水分だけでも、水分状態は維持できますが、夏などに、基材が乾いてきたと思ったら水を追加して調節しましょう。

入れたらよく混ぜ込む



水分が大事!

## STEP 6

基材は2～3ヶ月使用できます。途中でダンボール箱が傷んできたら、取り替えて中身に移してください。  
全体が黒っぽく塊ができるようになり、分解が遅くなってきたら投入のやめ時です。  
最後に生ごみを投入してから1ヶ月以上(推奨3ヶ月)熟成させた後、堆肥として使用できます。



『ダメ』っぽくなり分解も遅くなると、やめ時



熟成後

### 良質な堆肥に生まれ変わります。

ダンボールコンポストで出来た堆肥は、有機養分や繊維質、優良土壌菌に富み、土を元気にする良質な堆肥です。  
家庭菜園やガーデニングにぜひ活用ください！  
畑や庭にはそのまま混ぜ込んで使用できます。  
プランターや鉢植では赤玉土などの土と堆肥(土3:堆肥1)程度の割合で混ぜて使ってください。



実り・花つきが違います!

